

南仏事件情報（2015年9月）

（1）テロ、反社会的活動、大規模デモ

● シリア帰りの少年を裁判へ（7日、オート・ガロンヌ県）

7日、パリの検事は、2014年1月にシリアに渡航したトゥールーズの少年2人を、「テロへの参加」の罪で裁判にかける決定をした。少年らは15、16歳だった2014年1月、密かにシリアに渡ったが、ジハードの現場があまりに厳しかったため、2週間あまりでフランスに帰国した。両親が当局やメディアに通報をしていたことから、帰国後少年らは監察下におかれていた。今春まで少年らの矯正が行われていた。

● テロ支援容疑で逮捕（15日、エロー県）

15日、ベジエ市で、軽食店の44歳の経営者が警察からの捜索を受けた。自宅から銃が発見され、「テロ支援のための武器の不法入手と所持」容疑で捜査中である。同店のメニューには、グレネード、カラシニコフ、M16などの武器が掲載されていた。捜査当局によると、男性は、2012年のトゥールーズとモンターバンにおけるテロ・メンバーの家族とコンタクトをとっていた形跡がある。逮捕の数日前、男性はメディアからの取材に対し自らをイスラム過激派であると認めている。

（2）殺人

● 焼死体：復讐の痕跡（1日、ガール県）

1日朝、ニーム市のニーム・アレ間の鉄道橋下の茂みで、男性の焼死体が発見された。遺体は損傷が激しく、まだ身元は明らかになっていない。遺体はほとんど裸で、靴も履いていなかった。警察によると、復讐の痕跡が確認されている。

● マルセイユ中心街における惨劇（13日、BdR県）

13日午前6時ごろ、マルセイユ市1区のオペラ座界隈において、オペラ座の目の前にある24時間営業のバーに向けてカラシニコフ等が乱射された。襲撃者は4人で、大排気量の車から乱射し、その後さらに上空に向けて発砲しながら逃走した。この銃撃で、バーの警備員1人が死亡、客等5人が負傷した。深夜営業店における警備員は、治安の維持に貢献する一方で、客とのトラブルも散見されている。深夜営業店に対する銃撃事件は、2013年9月にも発生しており、ナイトクラブにおけるもめごとが原因

で乱射事件となり3人に重傷を負わせた。

- 焼失した車の中から男性の遺体発見（23日、ヴォークルーズ県）

23日午前、ペルテュイで、焼失した車の中から遺体が発見された。遺体の身元はまだ明らかになっていない。車は、転売を繰り返されているため、持ち主を特定することは困難である。同地区は、自治体が数年前からジプシーの共同体を定住させようとしているエリアである。

（3）強盗

- レストラン経営者に押し込み強盗（1日、オート・コルス県）

1日深夜1時ごろ、サント・ピエトロ・ディ・テンダのアグリアット砂漠にあるレストランで、経営者とその妻が眠りについたところ、何者かが玄関をノックした。客の訪問だと思った経営者が扉を開くと、複数の覆面武装強盗が侵入してきて経営者は縛り上げられた。強盗は経営者を脅し、1,000ユーロを奪って逃走した。

- 24時間で3件のナイフ強盗（1日、BdR県）

1日、マルセイユ市で3件のナイフ強盗が発生した。9区でピザ配達人の若者が、スクーターに乗った2人組の強盗から80ユーロを脅し取られた。5区のサン・シャルル駅横のカミーユ・フラマリオン通りでは、5人の若者が、ナイフを持った3人組の強盗から携帯電話を強奪された。午前1時ごろには、プラド海水浴場で同様の犯行が繰り返され、8人の若者が3人の男からナイフで脅されて時計や携帯電話を奪われた。

（4）その他特異事件等

- 同性愛者の若者が5人組から襲われる（6日、BdR県）

6日早朝、マルセイユ市1区において、ゲイバーから出てきた男性2人が、5人組から襲撃された。襲撃者は、被害者の背後から現れ、1人を押し倒して殴る蹴るの暴行を加えた。止めようとした友人にも暴行を加え、さらに侮辱の言葉を投げつけた。

- 一時出所の男性が銃撃を受ける（13日、）

13日16時ごろ、マルセイユ市で、車を運転していた30歳代の男性が、大型スクーターに乗った襲撃者から銃撃を受けた。襲撃者は2人組で、

運転席側から銃弾を浴びせた。運転手は脇道に逃げ込んで救急隊に通報し、救急ヘリで病院に運ばれた。被害者は、当局から犯罪者として知られており、現在投獄されており、事件当時は週末の一時外出を許可されていた。

● 雪崩で7人が死亡（15日、オート・アルプ県）

15日、ペルボーのドーム・デ・エクリン山頂付近で、雪崩が発生して外国人登山者8人が巻き込まれた。このうち若いドイツ人1人は大腿骨を骨折して病院に運ばれたが、残りの7人は全員死亡した。2014年12月以降、オート・アルプ県では24人が命を落としている。

● 90歳代女性が自宅で強姦被害（18日、アルプ・マリティム県）

18日午前3時ごろ、カンヌ市で、自宅で就寝中だった90歳代の女性が、強姦被害に遭った。女性は病院に運ばれた。警察がDNA鑑定により捜査した結果、犯人は近所に住む27歳男性で、被害者の近親者だった。男は、「弱者に対する強姦罪」で取調べを受けている。

● 奇跡的な生還（28日、BdR県）

28日午前1時ごろ、マルセイユ市14区で、車に乗っていた34歳男性が、カラシニコフによる銃撃を受けた。男性は車から抜け出して徒歩で逃走し、友人宅に避難した。男性は、腕と肩甲骨を負傷した。男性の車の周りからは20発の薬きょうが発見された。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。